

## 薬学部 令和4年度3つのポリシー定期点検会議 議事録

日時：令和4年6月29日～9月8日（書面会議）

本年度もコロナが収束していないことを考慮し、参集することは避け、6月29日に資料とアンケート用紙を送付し、アンケートに回答してもらう形で行った。また、9/2に寺田学部長、松岡学科長、平野教授、常岡でアンケート内容を確認し、議論し、今後の方針について検討した。詳しいアンケート結果は（別紙～詳細版～）を参照のこと。

### 【学外評価参画者】

田尻 耕太郎 一般社団法人群馬県薬剤師会 会長  
原佳津行 一般社団法人 群馬県病院薬剤師会会長

### 【教育改善委員（学生）】

5年生 2名  
4年生 1名  
3年生 1名

### 【学科教員】

学科全教授及び高橋（成）准教授（自己点検シート執筆者）

### 【送付資料】

メールの添付の資料：

- ・①3つのポリシー全文
- ・②2021年度大学薬学部自己評価シート（基準1、4、5、6、7、8、9）  
\*教員にのみ基準2も送付した。
- ・③2021年度大学院薬学専攻自己評価シート（基準1、4、5、6、）
- ・④アンケート用紙

郵送関連資料：

- ・委嘱状
- ・薬学部3つのポリシー印刷物
- ・基準1（大学 薬学科 理念・目的）
- ・基準2（大学 薬学科 内部質保証）教員のみ
- ・基準4（大学 薬学科 教育課程・学習成果）
- ・基準5（大学 薬学科 学生の受け入れ）
- ・基準6（大学 薬学科 教員・教員組織）
- ・基準7（大学 薬学科 学生支援）

- ・基準 8 (大学 薬学科 教育研究等環境)
- ・基準 9 (大学 薬学科 社会貢献・社会連携)

- ・基準 1 (大学院 薬学専攻 理念・目的)
- ・基準 4 (大学院 薬学専攻 教育課程・学習成果)
- ・基準 5 (大学院 薬学専攻 学生の受け入れ)
- ・基準 6 (大学院 薬学専攻 教員・教員組織)
- ・大学案内 (最新)
- ・募集要項 (昨年度分)
- ・履修ガイド (今年度分)

## 1 事前説明

メールにて今回の会議について以下の概要を説明した。

- ・書面のみのこと
- ・アンケート回収のこと
- ・回答期限 (7月29日に設定したが、8月中旬まで伸ばした)

## 2 議事

I FD 自己点検会議 (9月2日) : FD 自己点検アンケートの集計が終わり、寺田学部長、松岡学科長、平野 FD 自己点検委員長 常岡 FD 自己点検委員で議論を行った。以下に内容を記す。

・PDCA サイクルを形だけではなく、内容を伴って、回せるように工夫すべきである。PDCA サイクルは教員にも今一つ浸透していない。わかりやすい形で、イラストを導入するなどして、見える化したらどうか。

・そのため、FD 点検会議を1年に1度ではなく、複数回 (例えば3か月に1回程度) するべきではないか。

・この会議 (9月) と FD 自己点検委員会のサイクルがずれている。この自己点検はまとまるのが9月だが、全学の FD は4月からサイクルが回っている。

・成績ヒストグラムを自己点検に活用したらどうか。成績に偏りがある授業については、教員から状況を説明してもらうなど。

## II 3 ポリアンケートのまとめ

### (1) 3つのポリシーについて

議論と今後の方針

学部：現状で問題は指摘されなかった。2024年に薬学教育のモデルコアカリキュラムが改訂される。新コアカリ設定の「薬剤師として求められる基本的な資質・能力」の改訂に沿い一部修正が必要になることが指摘された。

大学院：現状で大筋認められた。しかし、令和3年度入学卒の緩和で薬剤師以外の入学も認めることに対する説明が不十分との指摘があった。まだ一部変更点が反映されていない資料が残っていた。

## (2) 自己点検シートのアンケートの取り方について

自己点検シートの説明についてはよく理解された。また自己評価シート執筆者による評価についても概ね妥当と判断された。しかし、改善についてはあまり評価が高くなかった。

これはアンケートの取り方に問題があったと考えている。今回質問2において2021年度の改善状況を「1年間の改善の状況について」聞いたが、前年度の状況を示しておらず、執筆者のみの判断になってしまい十分な意見交換ができなかった。

⑤シートで2020年度に問題となった課題に対する成果を一部検証しており、十分に議論できなかったことを補足する資料となる。3ポリのアンケートは、大学教育を良くしていくためのものであり、このシートで特に注目すべきことは、これからの改善についてである。改善点が見いだされれば、今後のPDCAサイクルを回すために役立つと思われる。

そのために、執筆者に自己点検シートの「課題事項 \*伸長すべき点、改善すべき点」に特に力を入れて作成していただき、質問2を「1年間の改善状況について」ではなく、「課題の設定の妥当性、さらには新たな課題設定をきくべきだったと考えている。

以下の各項目については今後取り組むべき課題について主に取り上げた。

～以下学部ついて～

## (3) 理念・目的(基準1)について (学部)

### 課題

#### アンケートでの指摘

1. 令和4年度から学部長を委員長とした「将来構想委員会」を立ち上げることにしたが、その中で「大学として将来を見据えた中・長期計画」について、学部の方針との整合性に触れるべき。

<今年度の伸長・改善計画>

#### シートからこれからの取り組み

2. 令和4年度から立ち上げた学部長を委員長とした「将来構想委員会」において、将来の薬学教育の在り方について実質的な検討を行う。

(4) **内部質保証 (基準2)** について (学部) 教員のみアンケートをとった

**課題**

シートからの課題

1. 内部質保証の推進に責任を負う全学的な組織の権限と役割、当該組織と内部質保証に関わる学部・研究科その他の組織との役割分担: 本学部では組織的な内部質保証に関して、薬学部内の組織で体系的に行い、最終的には薬学部教授会(全教員参加)が責任を持っている。しかしこの体制については教授会等で十分な審議はされていない。

アンケートでの指摘

1. PDCA サイクルを回して大学教育を改善していくことが、まだ教員にも十分浸透しているとは言えない。「教育のPDCAサイクルの方針は大学として定めたものに準拠しているのか。あるいは学部独自のものがあるのか。PDCAサイクルを機能させる取り組みに書かれているのは、Checkのことだけのように感じる。」という意見もあった。

シートから<今年度の伸長・改善計画>

内部質保証に関わる学部・研究科内の組織との役割分担について、教授会等で議論する。

(5) **教育課程・学習成果 (基準4)** について (学部)

**課題**

シートからの課題

1. アセスメントチェック表を活用して、学位授与方針の点検・評価を薬学科の教職員で適切に評価する方法(時期、責任体制など)をさらに検討する必要がある。
2. アセスメントチェック表を活用して、教育課程の編成・実施方針の点検・評価を薬学科の教職員で適切に評価する方法(時期、責任体制など)をさらに検討する必要がある。
3. オンライン授業の場合、適切な学習時間の確保については学生の態度に依存する面が多いので、学生によりバラツキが生じてしまっている。
4. コロナ禍を受けて半分程度の授業はオンデマンド型のオンライン授業であり、即時的な双方向性のやりとりには限界があった。対面授業の拡充もしくはオンライン授業での教員と学生との対話の改善方策を検討する必要がある。
5. 卒業論文作成のための基本方針や作成要領は示されていない。また、ルーブリック表に基づく評価の総合点およびその内訳は指導教員間で相互に開示されておらず、客観性の観点から改善が必要である。
6. 学位授与に係る手続きは明示されているが、その責任体制については明示されていない。
7. オンラインの卒業研究発表会は6年生と大学院生、教職員の参加を可としているが、5年生や他学科の教員への公開について検討する必要がある。
8. アセスメントチェック表を用いたアセスメントは学部長、学科長、教務委員長、自己点

検委員会委員により行われているが、アセスメントの時期と責任体制が明示されていない。また、アセスメント結果はどのような形で学内教員に周知していくのが定められていない。

9. 「学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握・評価する」という観点においては、策定された「教育評価実施指針（アセスメント・ポリシー）案」を十分に検証し、具体的なアセスメント項目や運用方法を検討する必要がある。

講義科目・演習科目・実習科目について、概ね成績評価の方法・基準に従って成績評価が行われているが、体系的・総合的な学習成果を測定するための指標は設定されていないため、適切な指標について検討する必要がある。

#### 今後の取組（シートから）

1. 「3つのポリシー定期点検評価会議」を定期的を開催する。

学位授与方針の点検・評価を薬学科の教職員で適切に評価する方法をさらに検討する。

2. 教育課程の編成・実施方針の点検・評価を薬学科の教職員で適切に評価する方法をさらに検討する。

3. 2022年度からは一部科目を除き対面授業となる予定ではあるが、引き続き学習時間の確保と講義の改善に向けて留意していく必要がある。

4. 対面授業実施により教員と学生との交流機会を増やし、オンライン授業で代替する時の対策も検討する。

5. 学位論文審査の客観性を確保するために、卒業研究および卒業論文の総合点およびルーブリック表による評価の内訳を、教員間で共有する方法を議論する。また、卒業論文の作成指針について検討する。

6. 学位授与に係る責任体制について検討する。

7. 卒業研究発表会の5年生や他学科の教員への公開について検討する。

8. アセスメントチェック表の運用について定期的に検討する。体系的・総合的な学習成果を測定するための指標を設定する。

#### アンケートからの課題

1. 生徒と教員のコミュニケーションのために対面を実施するとあったが、時間内に講義が終わらないことが多いのが気になる。オンラインであれば、時間を気にせずできるし、繰り返し見られるので対面よりもいい。

(6) **学生の受け入れ（基準5）**について（学部）

**課題**

#### シートからの課題

1. 今後も3つのポリシー定期点検会議および薬学部教授会で定期的な検討を行う。【①-4】
2. 全国的な入学者選抜制度の変更を見据えて、入学者選抜制度の検証および学生募集方法の検討を継続して行う。
3. 令和3年度入学者選抜（令和2年度実施）の結果は、定員90名に対して入学者95名であった。アドミッションポリシーに準拠した適正な入学者選抜を維持していきたい。

#### 【③-2】

4. 学生の受け入れの適切性について、入試委員会および教授会で定期的に検証する。

#### 今後の取組（シートから）

1. 3つのポリシー定期点検会議および薬学部教授会で学生の受け入れ方針を定期的に検討する。
2. 全国的な入学者選抜制度の変更を見据えて、入学者選抜制度の検証を継続して行う。
3. 入学定員（入学者選抜区分）に合わせた入学者選抜（入試判定会議）を行う。
4. 学生の受け入れの適切性について、入試委員会および教授会で定期的に検証する。

#### アンケートからの課題

- ③収容定員について適切な範囲を数値で示して欲しいです。  
「入学を希望する者への合理的な配慮」は行われているか。

#### (7) 教員・教員組織（基準6）について（学部）

##### 課題

#### シートからの課題

1. 退職を迎える教授がいるため、専門科目の適切な担当者を検証し、教員の年齢構成と女性教員の割合に配慮しながら教員の募集を行う必要がある。
2. FD活動については、学部理念と関連する独自の企画を考える必要がある。

#### <今年度の伸長・改善計画>

1. 大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編成に関する方針が、大学イントラの共有文書に明記されていることを周知する。
2. 来年度以降の教員採用について、教務委員会と教授協議会で協議する。

#### アンケートからの課題

1. 教員の男女比、年齢構成、授業担当負担への配慮に関する記述が求められる。

#### (8) 学生支援（基準7）について（学部）

## 課題

### アンケートからの課題

1. 課題事項としては、「学生の正課外活動として「部活動やボランティア」以外の課外自主活動を支援する体制がない」
2. 学生の修学に関して、障がいのある学生、成績不振者、留年者、退学希望者、奨学金希望者などへの支援に触れられていない。

### (9) 教育研究等環境（基準8）について（学部）

## 課題

### シートからの課題

1. 大学院充足率が低く、研究支援体制が不十分である。

### (9) 社会連携・社会貢献等（基準9）について（学部）

## 課題

### アンケートからの課題

1. 「2 自己点検・評価」の「基準②」には、「薬学部生涯研修セミナー」、地域貢献委員会主催の「地域貢献セミナー」の実施や、「群馬県薬学大会」の実施協力に関する記載を入れるのはいかがでしょうか。「基準③」には、薬学部生涯研修セミナーや、その他国際交流イベントなど、対外的なイベントに対する「アンケート」の実施について、記載お願いいたします。(例) ○○については、来場者の満足度や希望事項を毎回調査している。など・・・
2. 社会連携・社会貢献を取りまとめる委員会は、地域貢献委員会なのでは・・・と思うので、地域貢献成果の冊子作成についてや、実施を計画していたがコロナでできなかった、でも良いので、「3 伸長・改善に向けた取り組み」に何かしら記載した方が良いと思います。社会連携・社会貢献に係る事業毎で PDCA サイクルを考えた場合、C（チェック）機能が未整備である問題があると思います。その点については、「課題事項 \* 伸長すべき点、改善すべき点」に記載した方が良いと思います。

～以下大学院について～（大学院については外部評価者 教員のための集計となった）

### (10) 理念・目的（基準1）について（大学院）

## 課題

<今年度の伸長・改善計画>

シートから

1. 博士の学位の認定の審査の過程をより分かりやすく公平にするための、審査制度改革について議論を深める。

(11) **教育課程・学習成果（基準4）**について（大学院）

課題

シートから

1. 薬学研究科委員会でアセスメントチェック表を公表し、学位授与方針の点検・評価を実施する。
2. 薬学研究科委員会でアセスメントチェック表を公表し、教育課程の編成・実施方針の点検・評価を実施する。
3. 薬剤師資格を有しない大学院生に対する新たな専門科目の導入を行う必要があるかを検討する。
4. CAP 制導入の必要性を検討する。
5. 成績評価の客観性、厳格性を担保する仕組みについて、検討する。
6. 学習効果の把握及び評価をするための方策を検討する。
7. 薬学科教授会において承認したアセスメント・ポリシーに基づき、大学院薬学専攻の自己点検・評価のシステムを構築する。

<今年度の伸長・改善計画>シートから

1. 薬学研究科委員会でアセスメントチェック表を公表し、学位授与方針の点検・評価を実施する。
2. 薬学研究科委員会でアセスメントチェック表を公表し、教育課程の編成・実施方針の点検・評価を実施する。
3. 出願資格の拡大に伴い、新たな専門科目の導入を行う必要があるかを検討する。
4. CAP 制導入の必要性を検討する。研究指導計画を立てて明示し、それに基づく研究指導の実施が確認できる体制の構築を確認する。シラバスのチェックの実施を検討する。
5. 成績評価の客観性、厳格性を担保する仕組みについて、検討する。
6. 学習効果の把握及び評価をするため大学院薬学研究科中間発表会を継続し、さらに、2年目以降は年に1回発表することとする。
7. 薬学科教授会において承認したアセスメント・ポリシーに基づき、大学院薬学専攻の自己点検・評価のシステムを構築する。



#### アンケートから

1. 「＜対象年度における取り組み＞」の基準⑥には根拠資料（中間発表会のプログラムなど）が必要と思います。
2. 大学院生の研究指導計画は明示されているのか疑問である。

#### (12) 学生の受け入れ（基準5）について（大学院）

##### 課題

#### シートから

1. 2017年度は、薬学研究科委員会で学生の受け入れ方針の検討がなされなかったが、2018年度以降は、毎年検討している。
2. 入学者選抜制度の定期的な検証が必要である。
3. 学生の受け入れの適切性について、薬学研究科委員会での定期的な検証と評価が必要である。

#### ＜今年度の伸長・改善計画＞シートから

1. 薬学研究科委員会で学生の受け入れ方針を検討し、3つのポリシーのすり合わせが必要である。大学院を魅力あるものにするため、授業料のさらなる免除や進学先に対する情報公開などに取り組む。
2. 入学者選抜制度の検証をする。
3. 近年、各種薬剤師認定制度の充実に伴い、地元薬剤師からの本学大学院に対する期待も大きく、それらのニーズにも応えうる研究体制および環境の維持に努める。
4. 学生の受け入れの適切性を定期的に評価する制度設計や取り組みが必要である。

#### (13) 教員・教員組織（基準6）について（大学院）

##### 課題

#### シートから

1. 定年を迎える教員がいるため、教員の再編と開講科目の見直しを行う必要がある。
2. 大学院研究科委員会で、新規採用教員の大学院研究科指導教員に適合するか協議する。

#### (14) 全体を通しての指摘

#### 外部評価委員

外部評価委員 1： 厚生労働省の「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」及び文部科学省の「薬学系人材養成のあり方に関する検討会」で行われている議論の内容を大学本部と薬学部教員で共有し、今後の薬学教育の改善・充実に取り組むことが必要と思います。

外部評価委員 2： 御校の実習生を受け入れています。調剤実務などに関する教育は良く行われていると感じています。一方基礎的学力の不足を感じることも時々あります。入学時の選抜や、低学年における教養課程に関してご一考いただければ幸いです。

### 学生

学生 1： オープンキャンパスや学校説明会などを積極的に行うことは受験生増加につながると思います。また、その際生徒目線の話がもっと聞けたり、学校案内などがあると学生生活がどのような感じか理解しやすくなって入学希望者が増えるのではないかと考えられます。

学生 2： 受験生減少への対策として、薬学部についてもっと知ってもらうことが必要だと考える。具体的には、大学 HP の薬学部のページを充実させる、パンフレット以外に薬学部についての情報をまとめた小冊子を配布するなど。今現在公表されている情報の中で、在学生の生の声(実際に入学してみてどうか、大学生活について)や、研究室についての情報があまり公開されていないように感じる。

学生 3： 以下は自己評価シートに対するコメントではなく、学校生活を送る上で感じた不満です。直接言う機会がないのでここで書きます。102 講義室に入るとカビ臭い匂いがします。たぶんエアコンだと思うので、改善して欲しいです。対面授業が増えてから学校施設のことでも気になることが多いです。自習室の電灯が切れていることや、エアコンの匂いなど。また、薬学部のサロンがほぼ満席だったため、農学部のサロンで勉強していたところ、17 時 30 分頃にはエアコンが止められてしまいました。まだ 10 人ほど残っていたため、いくら節電のためとはいえ 7 月にエアコンを止められるのはいかなものかと思いました。ほぼ全ての科目で対面授業となり、学校に行く日が多くなったので、そろそろ正面以外の出入り口も開放して欲しいなと思いました。コロナ対策で正面玄関のみ開放すると 2 年前にメールが来たのですが、今の時期に本気でコロナ対策を徹底したいのであれば対面を減らすことが 1 番だと思うので、これだけ対面があれば他の出入り口を開放しても変わらないと思います。

### 教員

教員 1： 2021 年 4 月の「現状」のみの自己評価であり、2022 年 3 月の「改善」の自己評価がないため、質問 2 の「1 年間の改善状況について」がどの 1 年間の改善状況について評価すればよいのかわかりませんでした。

大学の自己評価が「S,A,B,C」に統一されたので、大学院の評価も「S,A,B,C」に統一したほうがよいと思います。また、「S,A,B,C」の評価基準が明記されていないので、自己評価の妥当性について客観的な評価が難しいです。

受験生減少の現実の中、本学薬学部が行うべきこと：奨学金を受けられる人数を増やす。国家試験のストレート合格率を上げる。入試偏差値を上げる。"

教員 2： 自己評価シートを全て 1 人で記載していたり、1 人が複数のシートを担当されている場合がありますが、負担が大きいと思います。2 名以上の体制にした方が良いのではないかと思います。

(例えば、学生支援の基準 7 は森先生に一部サポートしていただいた方が良いでしょうし、社会貢献の項目の基準 9 は、地域貢献委員会のサポートが必要と・・・客観的には思います。)

教員 3： PDCA では Plan の策定(数値目標の設定)が最も重要ですが、あまり明確にはなっていないようです。

教員 4： 全体的に大学院に関して多面にわたる整備が必要だと感じました。

教員 5： 記述がない部分が存在するのは良くない。また、項目が大学評価の項目であるため、大学としての現状を記述するのか学部としての現状を記述するのかが、執筆担当者によってバラバラになってしまっている。"

教員 6： "考慮すべき項目について毎年継続的に点検していくことは重要で、その目的には役立っていると思います。入学後に行き詰る学生がいる事は、AP に準じた入学選抜を考える必要がるのかもしれませんが。"

教員 7： 大学の AP に「リーダーとして」との記述があるので、CP でも「ならびにリーダーとして次世代の」と表現した方が整合性が感じられると思います。大学院：今後、薬剤師免許を持たない他学部出身者も積極的に受け入れていく場合、AP に記載のある「高度専門職」などの観点を CP にも明示的に含めた方が良いでしょう。